

レンドリースの「コミュニティ・デイ」は 28 年目を迎え、今年も様々な活動を実施しました

(2023 年 10 月 23 日):レンドリースの「コミュニティ・デイ」は、全世界のレンドリース従業員が社会貢献活動を行う日です。地域社会と積極的に関わりを持ってほしいという創業者の想いから、レンドリース・グループ全体で 1996 年から実施しており、今年で 28 年目を迎えました。

今年のコミュニティ・デイは 10 月 16 日(月)で、日本では、その前後 1 週間をコミュニティ・デイ・ウィークとして、様々な活動を行いました。毎年、そのリサーチ、企画、実施までを1つのプロジェクトとして、従業員が主導します。今年には以下の活動を実施しました。

■ チャリティウォーク

社員の健康増進を図るウォーキングイベントを開催し、従業員が歩いた距離に応じて、会社が慈善団体に寄付をする活動を実施しました。10 月 11 日から 19 日までの期間中、延べ 5 日間、北海道、仙台、東京、大阪、広島各拠点で勤務する従業員 52 名が参加し、近隣の公園内を約 164 キロ、ウォーキングしました。寄付金の総額は 15 万円となり、この寄付金は、国内の子ども・親子を取り巻く社会課題の解決に取り組む [認定 NPO 法人フローレンス](#) へ寄付されます。

■ 荒川の清掃

環境問題への意識向上を図るため、荒川のごみ拾いイベントに参加し、従業員が拾ったごみの量に応じて、会社が慈善団体に寄付する活動を実施しました。10 月 16 日、従業員 21 名が参加し、45L のごみ袋 22 袋、25L のごみ袋 8 袋分のごみを回収し、寄付金の総額は 20 万円となりました。ごみを拾いながら、河川ごみや水質、自然回復などの問題を考え、豊かな自然を取り戻す活動を行う [認定 NPO 法人荒川クリーンエイド・フォーラム](#) へ寄付されます。実際に参加した従業員からは、「河川敷のごみは、生活ごみ、不法投棄などの社会問題であることを実感しました。」という声が聞かれました。

■ フードバンクシンポジウム開催支援

十分な食べ物が必要な方へ行き渡るよう日本のフードセーフティネットの構築を目指す [認定 NPO 法人セカンドハーベスト・ジャパン](#) が主催する、[第 6 回 フードセーフティネット・シンポジウム](#) のサポート業務を行いました。当社が長年携わった、南三陸町での震災復興支援活動の一環として、当該団体が仮設住宅にお住まいの方々へ送る食料のパッキング作業を 2011 年にお手伝いことをきっかけに、長期にわたり支援を続けている団体の一つです。(当社の南三陸サポートプロジェクトの概要は、[こちら](#)の動画をご覧ください。)この活動に参加した従業員は、日本のフードバンクが抱える課題について理解を深めました。

レンドリース・ジャパン株式会社代表取締役社長のアンドリュー・ガウチは、次のようにコメントしています。

「企業に対する社会課題解決への期待が高まる中、当社では、この様な活動を従業員主導で40年前から行ってまいりました。28年前には「コミュニティ・デイ」として全世界で一斉にボランティア活動を実施する日を設けています。従業員がボランティア活動に参加し、社会課題に対する気付きを得るきっかけ作りを積極的に支援しています。」

当社のパーパス(存在意義)は「未来のために、持続可能な価値を生む場所を創造します。」です。持続可能な社会の発展のための社会貢献活動を推進しており、「2025年までに2億5,000万豪ドル(約236億円¹⁾)の社会的価値の創造」を目標としています。2023年度末時点で、2025年の目標値の約74.4%にあたる約1億73万豪ドル(約165億円)の社会的価値を創造しました。

詳細については、以下担当者にお問い合わせください。

青根 静
コミュニケーション・マネジャー
080-3578-3971
shizuka.aone@lendlease.com

レンドリース(<https://www.lendlease.com/>) は、オーストラリア、アジア、ヨーロッパ、アメリカで事業を行う国際的な不動産グループです。持続可能なコミュニティを創造するエキスパートです。オーストラリア・シドニーに本社を置き、オーストラリア証券取引所に上場しています。世界で約7,800人の社員を擁する企業です。当社の強みは、不動産投資、開発、そして建設という3つの事業に表れています。この3つの事業を組み合わせることにより、お客様に革新的な統合ソリューションを提供する上で、持続的な競争優位性を実現しています。

¹ 1豪ドル≒94.8円換算